夕刊　磐城新聞
三月七日發行
(日曜祭日翌日休刊)

童話　**孝行善六**　中

玉川玉涙

かくて、いよ〳〵、お通りは近まつてまゐりました
——下——へッ、下——へッ」
と、いさましい先ぶれのこゑが、あたりにひびきわたりました
すると、みんなみんな、もうのこらずと、地べたに頭をすりつけて、拜むことなのでありました
ところが、善六だけは、けふの御行列を、お父さんのいとまごひにみせたいのが腹一ぱいなんでありましたから、みんなのやうに、すはらずと、おんぶしたまゝ突立つてをるのでありました
すると、先ぶれの士が、ひどくにらんで
「はやく、そこへすはれ—!」
と、いひました
けれど、善六は、ちつとも耳へ入らないで
「アレ〳〵。お父さん、お殿さまの、お駕籠の御立派なことよーッ」
と、おぢいさんを背の方から前へ突きだすやうにしてみせました
すると、おぢいさんは
「ほんにマア〳〵……」
と、よろこんで〳〵、しまひには、うれし泣きに泣くやうなことでありました
この時、お駕籠のそばについてをります多くの供侍は
「あのたわけもの奴が、何んといふ御無禮なまねをするかッ」
と、叱るやら、怒るやら大分さわがしかつたのでありました
又、多くの見物人は見物人で
「善六さんが、かはいそうだよ。いまに、お侍に首をきられるだ。どうしたらよかろう」
と、わがことのやうに、心配しはじめたのでありました
けれど、善六だけは、一向さわがないで
「お父さん。けふはよかつたな。けつこうな御姿を拜ませてもらつて、ほんたうに、いゝことをしましたな—」
と、いひますと、背中のおぢいさんも又
「あゝ、あ、よかつた〳〵わしは之れでいつ死んでもいゝ。お殿さまのお通りを生期の間にもう一ぺん拜みたいと思つたが、けふはお前のおかげで、日頃の本望はとどいたよ」
と、よろこんで〳〵かへりました
かへりみちで、多くの見物人が、おぢいさん背負つた善六をとりかこみ
「善六さん、お前、なせ、あんな御無禮をしたか」
と、たづねました

磐女校友會誌　**かをりから**

一匹の虫

二年　鈴木初枝

リーダーを讀んでゐたら一匹の名も知らぬ虫が電燈傘の上からボタンと落ちて來た。それから二匹も三匹も……そのうち皆飛び去つて、とても珍らしこ虫が一匹殘つた。私は其の虫に見入つてゐた。ちよこ〳〵細い絹糸のやうな脚で本の上を歩き廻つた。翅を擴げるので飛ぶのだらうと思つてゐると、翅をつぼめてしまふ。なんといふ可愛いゝ虫なのだらう。でも害虫だらうか虫の生活振りや身の上、それからそれへと聯想してみた。虫はいつまでも其處を離れない。本の上を大海原か砂漠と考へてゐるのぢやなからうか。私はうつとりと見詰めてゐた。くる〳〵廻つたり、翅を弄んだり、色々な眞似をしてゐて、とても樂しさうなのだが、此の儘にして置くわけにはゆかない。私は又勉強を續けなければならない
可憐だとは思つたが、つゝと疊の上に落してしまつた。
『虫さん、かんにんして頂戴。其處は本の上よりもつと〳〵廣い砂漠よ。いつまでも其處においで』私は讀書を續けた。ふと見ると、虫は何處へ行つたか姿が見えない。今でも其の姿があり〳〵と眼に浮んでならない、

◇……
◇……

未亡人

五十嵐たみ子

○たをやめを世の人なべて僞れる未亡人とみる世のあさましさ
○うとましき世評をうくる人もあらむ我はちかひぬ佛の前に
○未亡人てふ名はいかにひゞくらむ炎のかむりと我はゐえいぐ
○黒髪もそがむ化粧(けはひ)も捨てもせんすべてゆだねし君の亡ければ
○惜しからず此黒髪もそぎなまし君にさゝげし此の黒髪を
○ながらへてあとゝぶらわんもうたてしや死におくれたる心地こそすれ

森里句鈔

新年之部　伊達森里

元朝や置かれしまゝの俳句張
元日の賀狀ドサと配られし
元日や間借同志の豚雑煮
靜かにも今朝は晴れたりお元日
船底のよく掃かれありお元日
元朝や白衣の禰宜のならび居る
泊船の雪掃いてゐる二日かな

その日〳〵

3月8日
△度量衡制定(大寶二)
△尿道腺發見のリーバー歿す(一、七〇九)
△獨立美術協會第三回入選者發表(昭和八)
△賀陽宮同妃殿下御渡歐の途につかせらる(同九)

○

昔とちがつて、卒業式に別れを惜しんでゐるやうな學生は、ほとんど見られなくなつた。

講談

戸隱奇譚　**山の怪秘**

(127)　丸山寛雄作　眞木浪齋

投込み寺　(二)

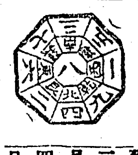
そこへ花冠の白花が上つて來た
「ま、あなたは瀧之丞樣——」
白花は、つぶらな眼を見開いて、だらしなく伸びてゐる瀧之丞へ聲をかけた
「———」
瀧之丞は白花をずらすつもりか、何も云はずにふて〳〵と寢そべつてゐる
「瀧さま——」
白花はなつかし味をこめて呼びかけた
「何だ、何の用だ」
「まあ、呆れたわね。今日に限つてそのていたらく——全体、何か氣に入らないといふのさ——」
白花は緋褻のうちかけを重さりに、たくし上げて瀧之丞の側へ、ぴたりと座つた。艶なだらしない座り方だ。恰度緋牡丹の花が咲いたやうだつた
「白花、俺もそろ〳〵年貢を納める時が來た。思へば長い道中だつたよ」
瀧之丞の眼には常のやうに、生き生きした閃きはなかつた
「まあ、何かと思へばそんなくも言めいたお話は、眞平よ、年貢を納めるだなんて、そんな野暮はお止しなさい。惡黨はもつと惡黨らしくなさいつていふことさ!」
白花は豐滿な身体を、ぴつりと瀧之丞の身体へ寄り添はせて艶な目つきで睨んだ
そこへ酒肴が運ばれた
「さ、一つ。これでも呑んで氣を直しなさいよ」

白花は猪口をとつて瀧之丞へさした
瀧之丞は、それを呑んでゆくうちに次第に頭の中の雲が晴れてやくやうに感じられた
「すまなかつた白花——許してくれ、俺とお前は二世も誓つた仲だつたのに、とんだ氣をくさらしたところだが、これにはわけのあることさ。一通り聞いてくれ」
瀧之丞は、受けか猪口を盃洗に入れて、白花へ返しながら
「實は、お前も知つての通り、雑司ケ谷の住居は昨夜を最後にのて脱け出たのよ。大家の奴、いやに店賃催促をしたから得意の剣舞で二三人眠らせて來てやつた。そこまではまだいゝのだが踊り際にや、町方へ訴人したものと見えて、御用提灯がこの俺を取捲くといふ騒ぎぢやないか。昨夜こそは、もう駄目だと思つたよ」
「そこで、お前さん、年貢を納めるとか納めないとか今し方弱音を出したんだねまあ意氣地のない——」
白花は瀧之丞を打つ眞似をした
「弱音を出したんぢやない思はず出ちやつたんだ」
「どつちでも同じぢやないの。もつと男らしく行くところまで行つたらいゝぢやないか」
「ところが行くところまでの騒ぎぢやないのだ。昨夜の追手が今にも跡から追つてくるかも判らないのだ。もはや俺はいよ〳〵絶体絶命といふところに來てゐるのだ」
瀧之丞はまだ此處でがつくり頭を襟の間に埋めた
白花も事態の迫つてゐることを聞かされて一時驚いたが、いざとなれば女の方が大膽である
「ちや、かうしたらどう……?」
白花は、はたと柔らかな膝をたゝいた
「何か、よい思案でもあるのか」
瀧之丞は、物憂さうな顔をあげた

八日

(小名濱測候所調査)

日出　六、〇〇　月出前　七、二四
日没　五、三七　月没後　九、二六
滿潮　前五、四〇　後六、三五
干潮　前〇〇、三〇　後〇〇、二五



新三月八日　金曜　癸未　大安　定　亢宿　舊二月四日

易斷本廳認　東京市本郷區湯島四ノ目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　金穀あるが如く見へても手中に止まり難し▲二黒の人　四囲の無事なるより却て心の緩みを起す日▲三碧の人　一喜一憂迦氣不定の日内を守るが安全▲四緑の人　其の職に忠實なれば貧乏神も逃げ去るべし▲五黄の人　捗らざれども成行きを以て進むが無事なり▲六白の人　正しき道によれば何事も通達するりう運の日▲七赤の人　守るよりも進むを先にすべき日旅行は凶▲八白の人　人を容るゝの量なければ邪魔の入り來る日▲九紫の人　謙遜の徳は我を樂園に導くものと知るべし

廣告

…試驗機完備…
發電機　マグネットチアージ　蓄電池　コイル　モーター
一般電機捲替並修理
久野電氣工業所
平町紺屋町五三　(呼電)三六六番

天下一品マヅイ　素人料理　おでん　**榮ちやん**　花ノ里　新田町

美味で評判の　**イワキサロン**　平町電三五二

株式賣買、債權取立　合資會社　**二共商事**　平町大町電三六〇

吉田眼科病院
平町紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

生徒募集
校舎…新築落成…
(本科)一年　五十名　(別科)一年　三十名
(別科)二年　若干名
願書提出四月二日迄、授業開始四月二日より
學費の低廉と家庭的に實質本意なるは他校の追從し能ざる所
平町八幡小路(縣社飯野八幡神社前)
磐城家政學園
(寄宿舍の設備あり)

ランドセル
本格的自信ある弊店の特製品です………。
品質本位の耐久力あるこの逸品をお薦め致します。
¥1.00　1.50　2.00　2.50
生地・型・耐久・を吟味して東京工場特製の
小學生通學服をお召し下さい。
絶對優秀の學生帽子
◇只今懸賞附賣出し中……
◇お買上げ毎に洩れなく進呈◇
中野洋品店
平二電五三

ミシン學生募集
◇地方唯一の洋裁專門學校
新學期四月五日　申込は今——絶好期
氣安く習へる個人的敎授
ミシン使用無料材料貸與
本校は學費の要らぬ學校
新設——夜間敎授　寄宿舍完備す
……校則二錢切手要ス……
平町二丁目二番地
磐城女子洋裁學院

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
(入院隨意　病室完備)

耳鼻咽喉科專門
平町田町(電六九一)
病室完備　自炊ノ便アリ
山内醫院
醫學士　山内亨吉

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

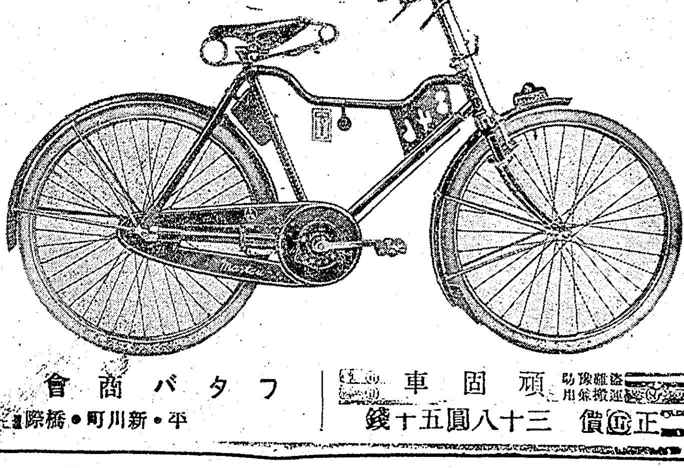
確實敏捷は久の生命なり

久シク安値ニ低迷シタ株式ハ猛然ト上昇氣配トナレ此處株式買仕込ミノ好機——一流株ニテ利廻リ六分七分ノモノアリ御照會ヲ乞フ。
御報次第店員參上致シマス。
株式、公債、社債現物賣買
角治株式店
福島縣中町田町五四
電話七三番

一月星豆炭
一八キロ一袋
金八十錢
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

外科
內臟外科
レントゲン線
△病室完備▽
醫學博士　諸橋鐵彌
新川町二七(電四六四)

平町田町
高久病院
(電話五三一番)
內科　小兒科　醫學士　高久忠
外科　花柳病科　新潟醫學士　赤羽清
耳鼻咽喉科　藥劑士　佐竹勇雄
レントゲン科



頑固車　正價三十八圓五十錢
フタバ商會
平・新川町・橋際

愈々近く決定さるる 平、小名濱の都計區域

來十九日地方委員會を開催

平、小名濱兩町の都市計劃に關する福島地方委員會は縣下三市のそれと併せ愈々來十九日內務省から松村都市計劃課長臨席、縣會議事堂に於て開催されるので青沼平、小野小名濱兩町長以下各委員が出席する筈であるが、內務大臣より諮問又は附議された事項は各町とも都市計劃區域決定を中心としたものである

非常時に奮ふ― 郡下六百の若人

聯合青年團總會の活況

郡聯合青年團第三方部會總會は今七日午前十時より平町聚樂館に於て開催、出席約六百名、大嶺副會長の開辭、國歌合唱、勅語並に令旨奉讀、會長挨拶、優良團員左記十四名表彰を了り、緊急動議としてあたかも三十周年忌法要中の內鄕村願成寺大越中佐墳墓に平町加藤正明外四君代表墓參の上前滿洲國軍々務顧問砲兵中佐後藤校造氏の『大越中佐を追憶して』と題する講演あり、終つて平野本明男、豐間鈴木德治、好間第二大河原正一內鄕片寄雄司、夏井坂本榮正、飯野波多英勝諸君が意見發表、協議に移り左記宣言を決議、了つて餘興映畫を上映午後四時盛會裡に散會した

優良表彰團員

飯野仲田政喜、好間第一猪狩勇、好間第二中村慶二、平小野誠三郎、內鄕大谷只治、川前松本太三桶賣宮田光實、小川草野永雄、赤井第一草野好雄赤井北部猪狩一司、豐間志賀重之丞、高久藥谷久太郎、夏井坂本乘康、神谷片寄實

決議宣言

第一 一事は萬事の修練に一層留意すること

個人として將た團體として、一事々々、一歩々々聖訓に恪遵して其の實效を擧ぐるに在ること。それには、職分に恪循し其の業務に淬勵し竭ふ所正を履み行ふ所中を執り、協戮邁往以て此の世局に處するにあること

第二 武道の振作奬勵を計ること

武士道の精華は武道の振作奬勵にある、非常時に於ては、士氣の鼓舞に如くものはない、これ武道の振作奬勵を計る所以である

第三 時間勵行

時間勵行の一事は萬事である

實戰回顧座談會 勿來の記念行事

勿來町では陸軍記念日當日午後一時から日露役出征勇士約四十名を同町小學校に招き實戰回顧座談會を開く

○○○○玉川弓道大會 大日本武德會玉川分會では當日午前九時より同村小學校庭に於て優勝旗爭奪弓道大會を催す

○○○○冷害防止座談會 田人村農會では左記日割により各部落毎に冷害防止座談會を開く

十三日―石住 十四日―貝泊 十五日―荷路夫 十六日―田人 十七日―黒田

○○○○關田小學增築 勿來町では六日の町會で關田小學校增築の件を附議したが右は工費一萬五千圓で同町字和久地內部落所有地三反步を買收八敎室二階建に改築するもので來る九月迄に竣功する豫定

手續を怠ると大損失

僅かな處で資格者になる 所得稅其他申告上の注意

第三種所得稅其他の課稅標準屆出に關し來十五日の申告期間を經過すると老幼控除等の恩典に浴せられぬ旨既報の通りであるが由來、第三種所得稅及個人營業收益稅の申告義務者とは、前年第三種所得稅、乙種資本利子稅及個人營業收益稅の決定を受けたる人、卽ち現實の納稅義務者たることは勿論ではあるが、第三種所得稅にあつては戶主又は其の同居家族の分を合算して所得額年額千二百圓以上の者は所得稅の納稅義務者である、隨つて前年申告をなしたがために控除の恩典に浴し無資格者となりたる者も申告義務者の一人であるから、若しも納稅資格に達せざるの故を以て申告を怠るときは所得稅の納稅者となるのであるから注意は最も肝要である

○○○○更生事務指導 縣では左記日割により夫々技術者出張の下に經濟更生指定村の事務指導を行ふ

十五日―大浦村桑園發蠶(松本技手) 二十四日―飯野村統計事務(吉田統計課長) 二十五日―神谷村同

全開期を通じて試む 盛り澤山の珍奇な餘興

花季を飾る滿蒙博迫る

陽春禮讃

愈々二旬の後に追つた平町の滿蒙と國防博覽會は既に國防館が完成し目下出品館の工作進行中で引續き迎賓、演藝兩館の建設に入る筈であるが、四月一日開館當日以後の餘興諸行事次の如く花季を通じ一層の人出を豫想されてゐる

一日(開館式)午後一時より郡內有志及出品人、町所在官衙公署長、町會議員、各區長、各組合代表を招待、式後宴會

六日(提灯行列)午後六時會場集合、町內一巡後參加者に會場內無料公開

十日(軍人慰安)在鄕軍人戰役參加軍人遺族に會場內及餘興場無料公開

十四日(軍艦旗献納)磐城地方の國民的運動として遣外軍艦〇〇隻に軍艦旗獻納(大は十二疊のもの)あり

十五日(花火大會)三尺玉等あり

十八日(旗行列)午後三時より、他は前記六日の例による

二十一日(凧揚げ大會)全國より參加、十二疊大のものあり、五十圓以下の賞を懸く

二十三日(廣告祭)平町及郡內一般より參加、三十圓以下各等に賞を附す

二十八日(自轉車假裝會)

却て需要が多い

巢立つ少年求職者に對し 最近の一般傾向

職業戰線に向つて巢立ち行く小戰士約二百名のためにこれが橋渡し役の平職業紹介所では各方面の求人口開拓に大童であるが、これに對し目下の求人口は既報の如く比較的好條件な日本針布東京株式會社の見習生百五名の外各種商店四十軒、此人數約百名、計約二百五十名で求職者より多數に上つて居る、條件としては勿論身体强健、成績良好を望んでゐるが最近の傾向としては兩親の健全な身元の確固たる事がやかましい條件の一つとなつてゐるやうであり、尙農村方面の子弟に多い住み込み希望に對し町の者は兎角通勤を望む者が少くない樣であ

菜切庖丁で咽喉を斬る

發作男鑛泉で自殺

內鄕村大字綴鐵工職鈴木金治(四二)は去る一日から腦に異狀を來たしたので、妻及義兄濱田兵吉、附添つて泉村宮手礦泉路場泉コウ方に湯治に行き滯在中、六日午前一時頃妻の熟睡を見濟し同家臺所から菜切庖丁を持出して咽喉部を搔ッ切り卽死してゐるのを隣室に寢て居た前記濱田が異樣の物音に目を覺まし發見、屆出に依り植田署で檢視の結果病氣を悲觀し發作的に精神に異狀を來たし覺悟の自殺を遂げたものと判明した

惣善寺開基來の住持 卅九代の墓碑を整理

檀家の篤志で近く斷行

湯本町惣善寺は今より三百七十六年前の開基に係りその住持は現在の森文雄師を以て三十九代に及んでゐるが、歷代住持は遷化の都度適地を相して埋葬した爲同寺墓域の各方面に散在し、回向上の不便少くないので之を同一場所に纏むる事が檀家鯨岡愿道、比佐源造の兩氏によつて計劃され一昨五日夜町內檀家重立者を歷訪之が經費の寄進方を懇談した處、一擧にして稍々豫算に程遠からぬ二百圓以上に上つたので引續き所要額を集めた上纏に累代住職の墓地として豫定した場所に玉垣を築き、之に初代以下の碑を纏め適當の時期を見計らひ一大法要を營む見込であると

〔惣善寺〕湯本町の西方觀音山の北麓に在り、温泉山松壽院と號し淨土宗專稱寺末にして、永祿二年(2219)良音和尙の創建なり、後安永八年(2440)八月十四日火災に罹り再建せしを戊辰の兵燹に罹り復た燒失、今の伽藍はその後檀家の再造に係る、檀家九十戶、財產田一反七畝步、畑五畝廿七步、山林五町三反五畝五步を有す。(石城郡誌)

○○○○磐崎消防幹部會 六日午後一時から小學校に開き表彰者選定並に十年度事業に關し協議した

郡內にも連累者

酌婦掠奪事件に關聯し 被疑二名を擧ぐ

昨報―平署の敏捷なる活動により一網打盡の跳躍をつみとつた酌婦掠奪事件の首魁千葉縣船橋町五日市六四全農支部員內海勇吾(四五)外四名に對しては昨六日早朝から渡部温部長係り取調べ中であるが、同署では去月二十七日掠奪突發後船橋へ運ばれた間に於て郡內にも關係者があるとにらみ追及の結果、手紙其他の證據により平町禰宜町居住平發電所員堅田淸太郎(三五)內鄕村綴驛前全農石城特別執行委員淸水眞澄(四〇)の兩名を被疑者として引致取調べ中で、堅田は目下否認して居るが近く一切が判明されるものと見られてゐる

暴行三人男

各二十圓に處さる

湯本町臺ノ山炭鑛機械夫大和田秀治(三三)內鄕村大字宮字宮澤炭鑛運搬夫佐藤百衞(二五)同金坂機械夫齊藤榮治(三八)の三名は舊臘二十九日同村綴料理店千鳥事飯士井安三方で酌婦關口シキの待偶が惡いと顏面を殴打し店內の器物を破壞し逃走、同家表道路で出會した香山某に喧嘩を吹き掛けさんざん殴打した上道路傍の下水堀に投げ込んだ等々の亂暴を働いた所から今七日平區から各罰金二十圓を言渡された

募集

記者一名

中學卒業程度以上のもの、希望者履歷書送付あれ、面會日通知

○○○○亂暴坑夫に廿圓 好間村大字北好間字三反田隅田川炭鑛長屋居住支柱夫手塚辰吉(四四)は去月二日酒禁斷の採炭現場に泥醉して入坑、午後七時四十分頃監督の中川淸(三三)と仕事の上から口論の末、傍に在つた炭コットと稱する金具で同人の頭部を殴打、全治一週間の傷害を與へたため此程平區より略式罰金二十圓に處された

陸軍被服縫製講習

東北凶作地救濟陸軍用被服縫製に就き平町にも約二千個の割當てあつたので職業紹介所斡旋の下に此程これが講習會を開いたが、更に一般に縫製せしむべく八日午前九時より藤田女學校に於て第二師團經理部員を招き第二回講習會を開く事になつたので密針裁縫の經驗あり且つ密針の所持者、和服縫に相當熟練あるものの希望者は受講されたいと工賃は襦袢袴下一組十八錢肩章一組五錢、袴章一組二錢五厘

○○○○火藥取扱者打合 平、植田、四倉三署管內火藥取扱關係者打合會は九日午前九時から平署會議室で開き縣主催による火藥類取扱關係者打合會開催方陳情の件其他を協議後座談會を開く、出席豫定約百五十名

○○○○家事主任打合 郡女教員會では來る九日午後一時から平第二校で郡下小學校家事科主任打合せ研究會を開き細目編成に就き協議する

湯町無盡郡山出張所長

湯本無盡會社長鈴木康平氏令弟鈴木脩平氏は、從來本店に於て少壯事務家の敏腕を謳はれてゐたが今回同社郡山出張所長に榮轉赴任した

○○○○春に誘はれ家出 勿來町雜貨商若松與吉方雇人新潟縣西蒲原郡田野町生れ若松一與(二四)は昨六日午前十一時頃春に誘はれ北海道へ渡らんとした處を手配により中署に捕はれた

○○○○靴泥 內鄕村白水無職大和田定吉(四〇)は去月中旬頃平町二丁目靴店松本磯治方より皮靴(價格三十一圓)を窃取、六日平署に檢擧

磐中第卅五回卒業式

知事代理臨席の下に けふ滯り無く終る

磐城中學校第三十五回卒業證書授與式は今七日午前十時より同校講堂で知事代理高井教育課長臨席の下に、學校長告旨、國歌合唱、勅語奉讀、卒業證書並に教練合格證授與、校長訓辭、知事告辭、同窓會長關內正一氏來賓青沼町長祝辭、在校生四年水野透君送辭、卒業生代表山崎研治君答辭、卒業生保護者代表大浦村渡邊貫一氏謝辭の順序で校歌合唱し同十一時十分無事式を閉ぢたが、來賓約八十名盛況であつた

告辭

本日茲に本校卒業證書授與式に臨み卒業生諸子と其の悅を共にするを得るは本官の洵に欣幸とする所なり

諸子は本校に入學以來螢雪の功を積むこと數星霜今や高等普通敎育の課程を了へて各々其の志す所に向つて進まんとするは諸子のため將た邦家のため誠に慶賀に堪へざるなり、惟ふに帝國の現狀は內に國家的自覺愈々昂り外に國威の顯揚著しきもののあると雖も內治外交愈々多事多難を加へ國を擧げて國力の充實と國運の進展とに努むべきの秋なり、諸子須く世界の大勢と帝國の現狀とに鑑み直ちに社會の實務に就くと進んで上級の學校に學ばんとするに論なく今後更に一層の修養鍊磨を加へ剛健なる志操を堅持し刻苦精勵克く其の本分を完うし以て本校敎育の眞價を發揚し、遺憾あることなく克く母校の名譽と國家の期待とに添はんことを期すべきなり

希くは諸子各々自己の適する所に隨つて志を立て一層其の健康に留意すると共に潑溂雄渾なる氣魄を以て洋々たる前途に向つて邁進せられんことを一言素懷を述べて告辭となす

昭和十年三月七日

福島縣知事 伊藤武彥

輝かしい明日を 約さる百八十三名

新卒業生志望調べ

新卒業生百八十三名の志望別は左の如く、既報の如く上級校に合格してゐる者も少くない

高工二一 師範二部二〇 高校一九 高商一〇 高師六 東京商大豫科 同專門部 高等農林學校各四 高等商船 醫專 日大各三 陸士豫科 北大豫科 千葉醫大藥專部 遞信官養成所 測候技術官養成所 東京美術校 海軍兵學校 慶大豫科 早稻田第二高等學院 明治專門校 中大各二 東京外國 水講 北大專門部 大阪商大豫科 東京商工會 台北師範 東京鐵道教習所 日醫大豫科 東京藥專 早大專門部 慶大高等部 東京商工 東京物理學校 秋田鑛專 智山專門 体操學校 醫科大豫科 海軍志願兵各一 官吏六 實業四〇

廣告

大藏省允許 磐城無盡 共存共榮 斷然群ヲ拔ク

木村外科醫院 平町六丁目 電話 三〇九番

川井內科診療所 平町南町 電二四三

夜間診 松村胃腸性病科醫院 內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門 (平町西町電一〇七番)

上田醫院 外科 X光線 專門 入院隨意(自炊の便あり) 病室完備 平町南町 (電話 一二九)

ヒノマル 凍魚 國は日本。凍魚はヒノマル 鯛。海老。白魚。帆立貝 刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達 日本水產一手特約 發賣元 平製氷株式會社 電話 八二二・三一六番 平町代理店 ト印魚問屋 電話五二八番